（93 人）キ.「喃語には、ゆったりとやさしく応えている。」31.7%（98 人）ク.「顔を見合ってあやしたり、乳児とのやり取りや触れ合い遊びを行っている。」30.4%（94 人）、ケ.「たて抱き、腹這いなど、子どもの姿勢を変えている。」39.2%（121 人）サ.寝返りのできない乳児を寝かせる場合には仰向けに寝かせている。40.8%（126 人）シ.子どもとの継続的な関わりが保てるよう配慮している。30.4%（94 人）だった。なお、項目 22 では、ア～の下位項目全てが 3 割を超えるか、3 割に近い回答率であった。項目 23「障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。」32.7%（101 人）、ア.「一人一人の障害児の特性に配慮した計画を立てている。」42.7%（132 人）、イ.「障害児について保育者間で定期的に話し合い、積極的に関わっている。」36.6%（113 人）、ウ.「障害児に関する情報を保護者に伝え、連携を図っている。」42.1%（130 人）、エ.「障害のない子どもの障害児への関わりに対して配慮している。」38.2%（118 人）、オ.「就学に関して、保護者・小学校・教育委員会等との連携を積極的に図っている。」46.3%（143 人）、カ.「障害児保育に関する研修を受け、保育に生かしている。」35.6%（110 人）、キ.「医療機関や専門機関と連携し、必要に応じて助言を受けている。」40.8%（126 人）だった。項目 23 では、全ての項目が 3 割を超える回答率であった。項目 32「育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。」39.8%（123 人）だった。項目 33「一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。」49.5%（153 人）と半数近くの対象者が「該当しない」と回答していた。また、イ.「一時保育の子どもと通常保育の子どもとの交流に配慮している。」40.1%（124 人）だった。なお、項目 33 では、イ以外の下位項目においても 3 割に近い回答率であった。

（2）施設長

①対象者の属性

対象者数は 24 人で、男性 16.7%（4 人）、女性 66.7%（16 人）、不明・無回答 16.7%（4 人）だった。役職は、施設長（幼・保併任）25.0%（6 人）、施設長（幼稚園）12.5%（3 人）、施設長（保育園）41.7%（10 人）、その他 4.2%（1 人）、不明・無回答 17.0%（4 人）だった。

所有資格は保育士資格・幼稚園教諭免許を併有 33.3%（8 人）、幼稚園免許のみ保持 16.7%（4 人）、保育士資格のみ保持 4.2%（1 人）、その他 25.0%（6 人）、不明・無回答 20.9%（5 人）だった。

②結果と考察

各項目の回答のうち、「かなりあてはまる」の回答が 40%を超えた項目は以下の通りであった。

保育の内容に関する項目の環境については、項目 1－キ.「子どもの安全確保のために施設整備・遊具を定期的に点検している。」41.7%（10 人）、項目 2－オ.「庭など屋外での活動の場が確保されている。」54.2%（13 人）があった。食事に関する項目では、項目 3－ア.「子どもの一人ひとりの発育発達状況を考慮し、おいしくて食べやすい形状で提供されている。」41.7%（10 人）、項目 4－エ.「子どもの負担になるほどに、残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりしていない。」41.7%（10 人）、項目 5－ア.「献立表を作成し、事前に配布している。」70.8%（17 人）、5－エ.「サンプルを提示し、その日の献立や量を保護者にも伝えている。」41.7%（10 人）などがあった。子どもへの対応については、項目 6－イ.「おもらしをしたときに，その都度やさしく対応し、子どもの心を傷つけないよう配慮している。」41.7%

（10 人）、ウ.「衣服の脱ぎ着に際して、せかしたり、着せてしまったりしないで、自分でやろうとする子どもの気持ちを大切にしている。」41.7%（10 人）、オ.「休息時には、子守唄を歌ったり、背中を軽くたたくなど、安心して心地よい眠りにつけるように配慮している。」41.7%（10 人）などがあったほか、項目 10「アレルギー疾患をもつ子どもに対し、医師からの指示を得て、適切な対応を行っている。」50.0%（12 人）、項目 17－カ.「泣いたり不安になったりしている子どもに対して、放っておいたり、叱ったりするのではなく、子どもの状況に応じて、抱いたり、やさしく声をかけたりしている。」50.0%（12 人）、項目 18－キ.「異年齢の子どもが互いに触れあい、関心をもつようにしている。」54.2%（13 人）、項目 22－カ.「外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている。」50.0%（12 人）などであった。

子育て支援の項目では、項目 26「保護者の就労状況などに配慮して、行事や保育参加などの機会を設けている。」が、41.7%（10 人）、項目 29「虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに施設長まで届く体制になっている。」は 45.8%（11 人）、項目 30「虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。」は 41.7%（10 人）、項目 49 ではア.「園だより、クラスだより等を工夫して作成し、配布している。」45.8%（11 人）だった。

各項目の回答のうち、「どちらかといえばあてはまらない」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の合計の回答が 20%を超えた項目は、食事に関する項目では、項目 5－イ.「レシピを提示し、保護者に園で提供する食事に対する関心を促している。」25.0%（6 人）、ウ.「保護者が試食できる機会を設けるなど、栄養・味付け・食べ方など、園で配慮していることを知らせている。」20.8%（5 人）、エ.「サンプルを提示し、その日の献立や量を保護者にも伝えている。」25.0%（6 人）だった。子どもへの援助に関する項目では、項目 14－エ.「大型遊具などを使って屋内でも十分に身体を動かしたり友達と一緒に遊んだりする場がある。」20.8%（5 人）だった。子育て支援に関する項目では、項目 31－カ.「地域の子育て家庭の親子と園に通っている親子が交流する機会を設けている。」25.0%（6 人）、キ.「地域の母子保健活動と連携した取り組みを行っている。」37.5%（9 人）、項目 32－ア.「一時保育のための保育室などの確保に配慮している。」33.3%（8 人）、イ.「一時保育のための担当者が決められている。」29.2%（7 人）だった。

関係機関との連携に関する項目では、項目 38「小学校との間で、小学生と園児とが行事等で交流する機会を設けており、職員間の話し合い、研修などの連携の機会がある。」が 25.0%（6 人）となっていた。職員の自己評価や保護者への対応については、項目 46「保育の内容について、一人一人の職員の自己評価を基に、定期的に自己評価を行っている。」20.8%（5 人）、項目 57「子どもや保護者などのプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。」20.8%（5 人）であった。運営管理の項目では、項目 58－オ.「子どもの権利擁護に関する研修等に職員が参加している。」が 20.8%（5 人）であった。

「該当しない」という回答が 3 割を超えた項目は、項目 4－ケ.「食事内容が幼・保等で異なる場合に子どもへの対応に配慮している。」50.0%（12 人）、項目 24—ク.「長時間保育を受ける子どもに夕食や軽食が提供されている。」41.7%（10 人）、項目 32「一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。」が 37.5%（9 人）だった。

（3）本調査6　再修正を加えた自己評価項目による幼保合同保育実施施設4園における再調査

本調査5で使用した評価項目に、検討をふまえ、かつ既存の幼稚園自己評価基準等を参照し、新たな項目を加えた自己評価項目を、前述の幼保合同保育実施4施設において、施設長・保育者を対象に再度実施した。実施期間は、平成19年1月から2月にかけてである。

自己評価段階は、⑥「かなりあてはまる」⑤「よくあてはまる」④「どちらかといえばあてはまる」③「どちらかといえばあてはまらない」②「あまりあてはまらない」①「全くあてはまらない」の6段階とした。

i　調査施設・保育者等の状況

本自己評価は、上記4施設の保育者67名と施設長等5名に対して行った。

保育者の性別は、女性が60名、男性が5名であった（不明2名）。

所属は、幼稚園が17名、保育園が24名、幼稚園・保育園併任が20名（29.8%）であった（その他3名・無回答3名）。

資格は、幼稚園教諭免許・保育士資格の併有者は52名（77.6%）となっており、保育士資格のみあるいは幼稚園教諭免許のみ有している者4名、その他（看護師等）3名（無回答4名）に比べてはるかに多かった。

勤続年数は、3年未満が24名（37%）、3～5年未満は9名（13%）となっており、5年未満のものが約半数（49.2%）を占めていた。また、5～10年未満は8名（12%）、10年～20年は17名（25%）、20年以上は7名（10%）で、経験年数5年以上のものは50.7%いた。

また、クラス担当は、「ある」と回答したものが52名（78%）であった。主な担当クラスは、0歳児クラスが10%、1歳児クラスが9%、2歳児クラスが22%、3歳児クラスが10%、4歳児クラスが9%、5歳児クラスが9%、3歳以上児異年齢編成クラスが12%、3歳未満児異年齢編成クラスが15%となっており（無回答4%）、0歳児から6歳児までの全年齢の担当者がバランスよく含まれていた。

施設長自己評価は、園長や理事長等が行ったが、その経験年数や資格、立場は大きく異なっていた。

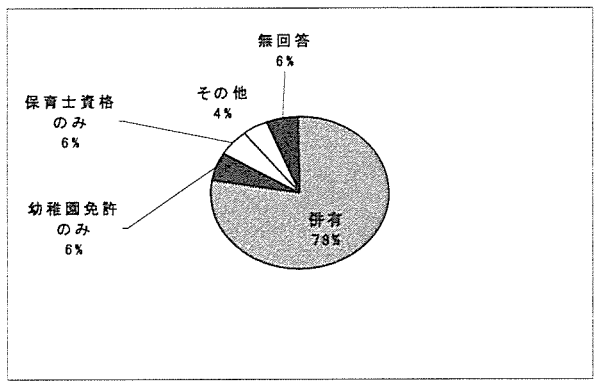

図1　免許・資格の状況

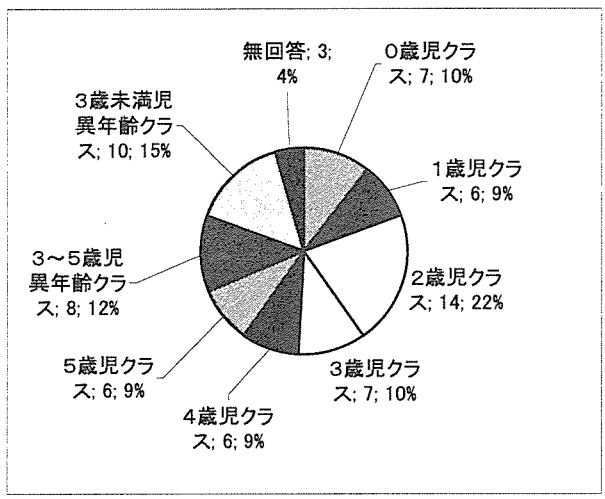

図2　保育者の担当する子どもの年齢

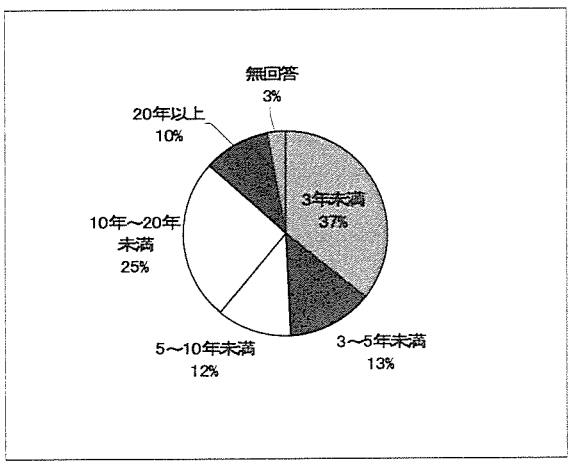

図３　保育者の経験年数

ii　結果と考察

A　自己評価について

保育者の自己評価については、全体の回答の割合が、⑥29%⑤31%④20%③4%②1%①1%と④よりもよいとした回答が 60%となった。４段階の自己評価表よりも、より「できている」中での自己評価の幅が広くなったが、③以下の回答は極端に少なく、6 段階評価の評価段階の内容について、再考が求められた。

また、項目ごとの評価の偏りに差がみられた。たとえば以下の表　に示すものは、さまざまな回答があった、もしくは、「該当なし」としたものが多かった項目である。これは、実施施設の運営形態や保育の形態等の内容によっても異なり、施設ごとにその割合に差がみられた。

施設長の自己評価については、回答が⑥38%⑤45%④10%③1%②１%①0%となっており、⑥と⑤の回答をあわせて 83%となっていた。項目については、「長時間保育」(キ)・(ク) については、1 人のみ⑥を選択したが、ほかは「該当なし」、①となっていた。その他については、おおむね⑥または⑤に回答していた。

B　自由記述について

自由記述では、施設長・保育者それぞれ、各項目に関する自由記述のほか、「新設した 2 項目（「環境の再構成」「研修・研究」）について」、評価段階を 4 段階から 6 段階へ変更してどうか」、「その他」という 4 点を加えた。

各項目に関する事項については、それぞれの項目についての自分の実践や特に積極的に行っていること、その園の特徴などについての記述がみられた。

また、新たな項目、評価段階等については以下のようになった。

a 環境の再構成について

環境の再構成に関する評価項目の新設に関する自由記述数は 12（16.6%；施設長と保育者の合計）と少なかったが、「子どもにあわせた環境作りという点で、良い項目だ」「子どもの主体性を考えるととても大切な項目だ」「深い項目である」「遊びの重要性に対する項目」「高度なことだがとても良い」など、好意的な意見がほとんどであった。

b 保育研究について

保育研究については、自由記述数が 13（18%；施設長と保育者の合計）であった。「毎年テーマを決めて研究している」「園の全職員で話し合い、進めていき、その中で保育の向上を目指したり、共通理解できたり、自分の保育を見直すことができている」という回答があった。施設長では項目設定におおむね賛成する意見でしめられたが、保育者では、「園内研をより充実させるための良い項目」「保育を高めるためにとても大切なこと」「園全体を見直す良い機会」とする意見があったが、「園としては難しい」「どの程度のものかわからない」など、個人としては判断に迷うという意見もあった。

C　6 段階評価について

自己評価の基準を 4 段階から 6 段階へと変更したことについては、記述が 19（26%）あった。その内容は、「記入しやすくなった」

「評価段階が広がり、○がつけやすい」「より正確に評価が行いやすくなり、良い」とする意見が多かったものの、「4段階でも良いと思う」「細かすぎ、微妙なところの違いがわからなかった」「基準がわかりにくくなった」とする意見もあった。

D　評価項目全体について

評価項目全体については、自由記述数が14（19%）であった。「保育を振り返る良い機会」であったとする意見があった一方で、「園としてどう活用していくか」「どちらかといえば・よく・かなりは、人によって%が違ってきそう」「項目が多すぎる」「当てはまるのかよくわからない」といった様々な意見があった。

E　4段階と6段階との比較

4段階から6段階にしたことで前述の課題について変化がみられた。まず第一に、自己評価が③,④に偏っていた項目（総項目数172項目）のうちの116項目中、⑤，⑥に偏った項目は、36項目にとどまった。6段階にしたことで、自己評価の幅が増えたことがわかる。しかし、未だに偏りを見せている項目は、たとえば、運営管理の面では、「事故や災害に適切に対応できるマニュアルを理解し適切に対応出るよう努めている」「性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している」などで、保育内容では、「遊びや生活を通して、子ども相互の関係が育つよう配慮している」「基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子どもの状況に応じて対応している」などであった。さらに、⑥に評価をしたものが50%を超える項目は、前回④の評価をしたものが50%を超えた41項目中、5項目にとどまった。しかし、保育の基本として大切な事項、たとえば、「庭など屋外での活動の場を確保している」「個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している」「子どもの負担になるほどに、残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりしていない」「おもらしをしたときに,その都度やさしく対応し、子どもの心を傷つけないよう配慮している」「子どもの発達段階に即した玩具や遊具などを用意している」は、ほとんどが高い評価であった。

第3に、「該当しない」とした項目と無記入の項目の合計が、25%を超えた項目は、4段階で47項目あったが6段階でも、33項目あった。「該当なし」となった項目は、「一時保育」や「乳児保育」、「長時間にわたる保育」等の項目や「民生委員や自治会との連携」、「中高生の受け入れ」などであった。（　資料　4　）

3）本調査7　評価システムに関する情報の分析と収集

（1）イギリスにおける評価の実態の把握と検討

保育・教育の評価に関して国家的なシステムを確立したイギリスにおいて、「保育の質」が具体的にどのように評価されているかについての資料を検討すると共に実際に、評価機関であるOfstedと、その評価を受けた5つの就学前保育・教育施設の訪問調査を研究スタッフの2名が実施した。

①Ofsted訪問調査の結果

A）イギリスにおける第三者評価の監査システム

このシステムの中心であるOfsted（教育水準局）は教育技能省（Dfes）から完全に独立した機関であり、中等教育の評価は1993年、初等又は特別教育の評価は1994年に始められた。初期の監査周期は4年ごとであり、Ofstedは1997年までに3,590校全ての中等学校と18,680校全ての初等学校、そして1998年までに1,300校の特別学校と320校のPupil Referral Unitを評価した。

Ofstedは、2003年からは保育施設も含むすべての教育・保育施設を第三者として評価するようになった。そのOfstedによる第三者評価の仕組みを図1に示しておく。

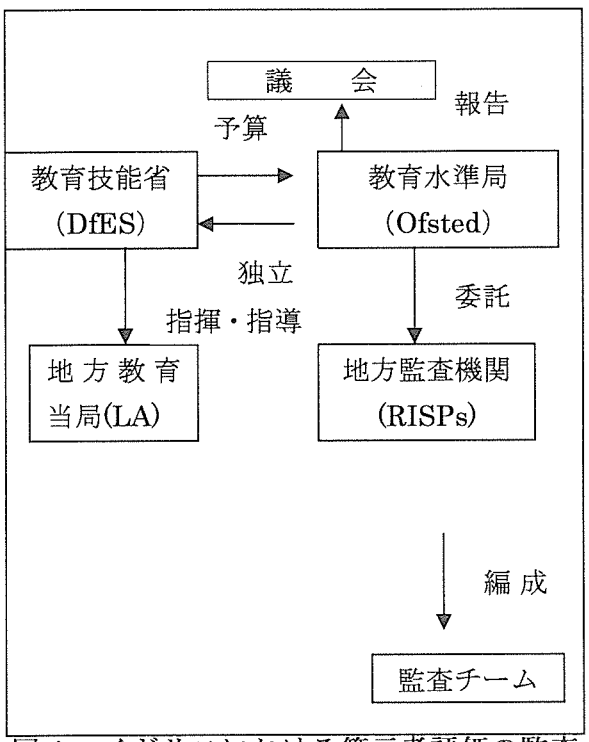

図4　イギリスにおける第三者評価の監査システム

Ofstedは、日本の文部科学省にあたる教育技能省からの予算的措置を受けてはいるが、その仕事内容については、完全に独立している監査機関であり、学校や保育施設に対する評価結果を議会に報告することが義務付けられている。Ofstedには、局を統括する責任者としての主席勅任学校監査官が1人おり、その下に学校を評価する勅任監査官(約250名)と児童福祉施設（保育関係施設も含む）を評価するチャイルドケア（保育）監査官（約900名）とがいる。勅任監査官は月に10件ほどの調査を受け持つ。

Ofsted が学校や保育施設を評価する目的は以前は次の4つであるとされていた。

・独立的且つ外部的に学校や保育施設の第三者評価を実施すること

・子どもの通っている学校の質としての評価結果を親に知らせること

・各学校や保育施設の長所と短所を指摘することによって、教育や保育の質の向上に貢献していくこと

・これらの監査結果に基づいて、教育技能省の長官に助言を与えること

Ofsted

しかし第三者評価が個々の学校や施設に対する評価から、現場の教職員に対する評価につながるとの批判が強くなってきたために、最近になって教育技能省では次の4つのキーメッセージを策定することによって現場の人々に理解をしてもらおうと努力している。

・監査官による評価は教育の水準を向上させる

・評価の方法の透明性をもっと重視していく

・自己評価をもっと重視していく

・評価は主観的な判断に依らず、実際に見たことをそのまま報告する

こうして現在では評価の基準は完全に公開されており、また自己評価は定型化したフォーマットがあり、いつでもOfstedのウェブから入手できるようになっている。

各地方には Ofsted から委託された民間としての地域監査機関が5社あり、ここもまた日本の教育委員会に当たる地方教育当局から

は完全に独立している。地域監査機関は予算的には教育水準局から評価を委託されることで運営されており、正社員と契約社員とからなる地域監査官（AI）で構成されている。これらの地域監査官は初任者研修を一週間受けた後、Ofsted によって認定、登録された人に限定されており、また継続的に研修を受けていく。これらの地域監査官は Ofsted の勅任監査官の指示の下でチームを編成して学校や保育施設の評価を実施している。

◆Ofsted による第三者評価の実施方法

Ofsted による第三者評価は、イギリスの全ての学校と保育施設（チャイルドマインダーも含む）を対象としている。第三者評価は原則として学校、保育・幼児教育施設は３年ごとに行われるが、その期間内であっても学校や保育施設の保護者等からクレームがあり必要と判断すれば評価を行うことがある。

学校や保育施設に対する第三者評価は、HMI（勅任監査官）と保育監査官、そして地域の民間監査員とで編成された監査チームによって実施される。学校や保育施設は経営活動の一環として、定期的に学校や施設の運営計画書を策定し、また自己評価や教育水準局指定の保護者へのアンケートを実施し、それらの結果を教育水準局へ提出する。

監査チームは、評価を実施する前にあらかじめこれらの資料を分析し監査資料を作成しておく。評価は実施日を知らせることなく、抜き打ち的に行われる。評価実施当日朝に、監査チームは学校や施設を訪問し、管理運営者と直前ミーティングを行った後に評価を実施する。評価の方法は、授業や保育の観察、関係者へのインタビュー、書類や報告書のチェック等で行う。評価結果はすべてパソコンにデータとして打ち込まれる。評価実施終了後には監査チームの内部ミーティングを行い、そのデータの適切性を確認する。

監査チームはそれらのデータをもとにして、その学校や施設における教育・保育の質が適切なものであるかを、Ofsted によって定型化されている評価マニュアルに基づいて判断していく。

判断は、outstanding（秀）、good（良）、satisfactory（可）、inadequate（不可　）の４段階であり、もし不可と判断されたときには、その学校は特別措置を必要とする。またその評価結果に対して、学校や施設側から疑問点や不満な部分を教育水準局に伝えることもできる。

これらの判断のうち、秀という判断は教育水準局によって確認された後に公表される。評価結果は報告書と要約が発表され、その施設・学校、地方教育委員会（LEA）、関係機関に送られる。もし不可と判断されたときには、HMI はその後どのような進歩が見られるか、その学校や施設を再度にわたって訪問する。LEA もその施設・学校が改善するのを指導している。もし再訪問の結果、改善が全くみられないようであれば学校や施設の閉鎖もあり得る。

◆　Ofsted による保育・幼児教育施設に対する評価内容

Ofsted による第三者評価の対象となる保育・教育施設としては、次のようなものである。

（１）State nursery schools　（公立幼稚園）
３、４歳児を受け入れ、１週間のうち５日間にわたり半日制の保育を行う。子ども２０人に対して保育の有資格者１人が義務付けられている。

（２）Private kindergarten　（私立幼稚園）
２歳から５歳までの子どもを受け入れ、半日制及び１日制で学校の休み中も保育を行う。子どもに対する保育の有資格者の割合は公立と同じである。

（３）Nursery classes　（公立小学校の幼児学級）
３歳または４歳から受け入れ、週のうち５日間にわたり半日制の保育を行う。有資

格者は子ども２６人に対して１人が義務付けられている。

（４）Reception classes　（公立小学校の初級学級）

４歳または５歳児を受け入れる。初めは半日制で慣れてきたら１日制に移行する。１学級の人数は３０人と法的に制限されている。

（５）Playgroups　（プレイグループ）

３歳から５歳児を受け入れ、半日制である。地域の有志や両親が公民館を使って運営していることが多い。子ども８人に大人が１人つくことと、大人の半数は有資格者であることが必要である。

（６）Day nursery　（公立・私立保育所）

５歳児以下の幼児を１日受け入れる。地方自治体、教会や慈善団体などによって運営され、両親の都合に合わせて保育する。子ども８人に大人が１人つき、その半数が有資格者であることが必要である。

（７）Family center　（ファミリーセンター）

地域の子ども家庭支援センターなどで保育されている場合。

（８）Child　mynder　（チャイルドマインダー）

Child　mynder によって個別的に保育されている場合。

乳幼児の保育・教育施設は、公立・私立を合計するとイギリス全体で約１０万ほどあり各年齢段階ごとに定められた次のようなガイドラインに適合した保育・教育を実施しているかが評価される。

・０歳から３歳は、Birth to three matters・３歳から５歳は、nursery follow 3-5 curriculum guidance

・８歳以下は、standard for all under age　8

なお、これらのガイドラインのうち３歳以下は義務でなく推奨として実施されている。また2008年９月からは、３歳から５歳は新たに「幼年期基礎ステージ・カリキュラム」によって統一される予定である。

そこでは次のような６つの基準項目が設定されている。

健康づくり
- 健康
- 食育

安全
- 物的環境
- 教材教具
- 安全性
- 子どもの保護

達成や楽しさ
- ケア
- 学び
- 遊び

子どもたちの積極的な参加
- 機会均等
- 特別支援
- ふるまい方
- 保護者との関係

組織
- 適材適所
- 記録
- 組織編制

経済的により良くなるために

これらのうち、「組織編制」と「経済的により良くなるために」は判断材料としては用いられない。監査報告書では、これらの項目にのうち上から４つまでについて、４段階評価がなされることになる。

◆　Ofsted による保育・幼児教育施設に対する監査の実際

2000 年保護標準法により、Ofsted は子どもを自宅で預かる形式も含めた保育の規制に関する責任を与えられた。イギリスでは 10 万を超える保育・幼児教育機関がある。それに対して現在 Ofsted には、約 250 名の勅任監査官と約 900 名の保育監査官がいる。監査

チームは指導する勅任監査官１名と保育監査官数名で実施されている。

2001 年 9 月以降、Ofsted は保育・幼児教育に関し、次のような機能を果たしてきた。

‡@ 保育提供者の規制

‡A 保育が標準的な基準を満たしているか、及びその質を査定するための定期的な監査

‡B 提供者が適切であるかを査定するために、提供者に対する苦情の有無の調査

‡C 必要に応じた強制施行

2005 年以降から、監査方法は以下のように改定された。

‡@ 施設に問題がある場合を除いて、評価は約 3 年に一度行われる。

‡A 監査は 1 日から 2 日で行う。また少ない監査員で実施できるようにする。

‡B 学校や施設への予告をほとんどすることなく実施する。

こうした改訂により、保育施設の自己評価が監査の中で重要な役割を果たすようになり、施設は自己評価を毎年更新するようになった。また監査員は現在より短縮された定型的な枠組みに従って実施することになった。実際にはパソコンを携帯し、必要な評価内容の調査結果を現場で入力する方法を導入している。

地域ごとに２人から６人くらいの監査者がチームになって評価を実施する。評価に当たっては、あらかじめ提出されている実施計画書や自己評価の結果、さらには保護者アンケートの結果等を参考にして、調査項目を絞り込んでおき、短時間での調査による評価が可能になるようにパソコンの導入が図られている。評価内容はケアの部分と教育の部分の二側面について査察されている。評価方法は、子どもを観察したり子どもと直接話すこと、子どもとスタッフのかかわりを観察すること、チャイルドマインダーやマネージャー、スタッフなどと話すこと、保護者と話すこと、保育計画や保育記録や苦情などの記録を調べること等、実際の証拠を集めることが重視されている。

◈ Ofsted の評価基準と通達方法

各保育・幼児教育施設は、監査官によって実際に集められた証拠から、次の４段階で評価される。

Outstanding

・環境が優れている
・子どもたちの成長がすばらしい
・模範的な実践である
・改善点は無い

Good

・保育者が充実している
・子どもたちの成長がよくわかる
・発達を促す価値ある実践がなされている
・改善点はほとんどない

Satisfactory

・環境は適切である
・子どもたちの成長がみえる
・よりよい実践への見通しがある
・改善点がわずかである

Inadequate: Category 1

・保育者が不十分である
・子どもたちの成長が十分ではない
・心配な原因がある
・改善への行動がなされていない

Inadequate: Category 2

・保育者が不適切である
・子どもたちの成長が不十分である
・緊急な配慮が必要
・強制的な行動が必要
・保育のために恒久的な支援が必要

保育提供者に対する評価が終わった後、報告書と要約が発表される。これらはその施設・学校、地方教育委員会（LEA）、Ofsted 、そして一部の機関にも送られる。施設・学校においては学校内の各児童の親に要約のコピーを送らなくてはならない。報告書は監査終了後 6 週間以内に発表される。また報告書は

その施設・学校が改善のため何をしたら言いかを勧告する。施設・学校の責任者（通常は理事）は報告書を受け取ってから40日以内に監査の結果を受けて何をする意図があるかのプランを書かなければならない。

保育・幼児教育施設に対するこれらの評価の割合は、2003年のデータではOutstandingが4％、Goodが17％、Satisfactoryが54％であった。その施設に対してOutstandingという評価を出す場合は、主席勅任監査官の合意を必要とする。またInadequate: Category 2と判断され、再検査によっても改善が見られず閉鎖された施設は2005年度は200にもなった。

②公表された評価結果の検討

施設Ⅰ（Kindergarten）

教育の質と水準に関する総合評価 outstanding

◆保育環境（provision）の領域別評価およびその根拠

○子どもの健康への援助：outstanding

・健康、衛生、食べ物、飲み物に関し、細部に注意が行き届いており、子どもの健康と福祉が保障されている。子どもたちの医療や食事についてのニーズがよく把握され、すべての職員に効果的に伝達されている。

・子どもたちが持参したお弁当は冷蔵状態で保存される。家庭から届けられた食べ物をキッチンで準備し、温かい食事を提供することができる。乳児には食事が準備され、管理においては十分な注意がなされている。子どもたちの食事に関する記録は日常的に保護者と共有されている。新鮮な果物や野菜など、健康的で多様なおやつが提供される。また、一日を通して必要なときに飲み物が提供される。

・遊びの後や食事前の手洗いが日課に含まれている。子どもたちに手洗いの重要性を理解させるよう援助がなされている。子どもたちはティッシュを使用し、ごみばこに捨てる。

・保育は清潔で衛生的な環境でなされている。トイレの世話やオムツ替えは適切な手順でなされている。

・投薬が必要な場合は、薬について保護者かcarerが記録し、署名をする。応急手当は園内でトレーニングを受けた職員が行う。救急箱が園内の数箇所に設置してある。体調を崩した子どもは、保護者かcarerが迎えに来るまで安静な状態に保たれる。感染症にかかった子どもを感染の危険がなくなるまで通園停止にすることにより、感染の拡大が予防されている。

・天気が許すときには外で身体的遊びを行う。地面がぬれているときは、予備の長靴とコートを使用することができる。子どもたちは、大型遊具、車輪つきのおもちゃ、小さな道具を使用することができる。外に出ることができないときには、室内で音楽と動きのある活動を行う。

・自由遊びの時間には遊具や活動を選ぶことができ、主体性の発達が促される。おもちゃは、子どもたちが自分で取ったり戻したりできるような入れ物に保管されている。

○危険やネグレクトからの保護と安全への援助：outstanding

・子どもたちは非常に安全な環境で保育されている。

・子どもたちは誰も見ていない状態で敷地を出ることはできない。また、訪問者はすべて園内に入る前に審査される。

・階段のゲート、手すり、広い廊下、電気、安全な出入り口等が設備されている。また、高くて頑丈な木のフェンスにより、園庭の安全が保たれている。教室は広々としており、自然の光が差し込む。子どもたちの安全、快適さ、発達を促すために選ばれた高品質の家具と遊具が備え付けられている。

・すべての部屋にはトイレが設置されている。トイレは清潔で、便器、洗面所、オムツ替えの設備が整っている。また子どもが使いやすく魅力的なつくりになっている。
・子どもたちは定期的に避難訓練に参加しており、職員は非難の手順に精通している。事務所の職員へ直接つながる通信回線があり、いかなる時でも援助がすばやく召集される。
・職員は子どもを守るための方法を理解している。職員はよく訓練され、自信を持ってあらゆる懸念事項に対処することができる状態にある。

○子どもたちが達成することや楽しむことへの援助：outstanding

・保育にあたっては、子どもたちの年齢や発達段階にふさわしい、計画された活動と自由な活動がバランスよく含まれたプログラムが組まれている。3 歳以上の子どもたちのためのカリキュラムは Fondation Stage に基づいており、3 歳未満児については、'Birth to three matters' の枠組みを念頭に計画されている。
・子どもたちがめりはりのある楽しい一日を過ごせるよう、日課に活動的な時間と静かな時間、自由遊びと設定された遊び、外遊びといった異なる要素が含まれている。
・眠ったり昼寝をしたい子どもたちは、好みに応じてマットか簡易ベッドで寝ることができる等、個人のニーズが尊重されている。
・乳児の部屋は、広々としており、はいはいしたり寝返りしたりできる。家庭的な家具が設置され、つかまり立ちやヨチヨチ歩きを始めた乳児の動きを促す。
・子どもたちは、文化の多様性を表現している道具や画像を使用することができ、プログラムの一部としてお祭りや文化的なイベントに参加する。他の文化の子どもになることがどんな感じがするのかを理解するために、ドレスアップしたり、ごっこあそびエリアを使用したりすることができる。
・玄関前には、たくさんのかぼちゃや秋をテーマとした展示物など、想像力に富んだ展示物が置かれている。それらは、感触や視覚を刺激し、疑問や叙述的な言語の発達を促す。
・乳児を含むすべての子どもたちが、泥遊びや創造的な遊びを行う機会をもつ。最終的に何かを製作することを目的とせず、様々な手ざわりや匂い、色、音を経験することを楽しむような感覚的活動を楽しむことができる。
・職員は発達段階をよく理解しており、保育を個々の子どもに合わせて調整することができる。子どもたちはそうした職員とあたたかくフレンドリーな相互作用を楽しんでいる。
・乳児は授乳時にしっかりと抱かれ、安心や安全を感じることができる。

○幼児教育：outstanding

・職員は Fondation Stage のすべての側面について適切な知識と理解をもっている。そのため、子どもたちが幼児期の学習目標に向けて進歩するのを支援する、幅広くバランスの取れた活動と遊びのプログラムを計画することができる。
・活動は、子どもたちの異なるニーズや発達段階に応じ個別に調整される。子どもたちにとって十分に挑戦を含み、子どもたちが考えたり問題を解決したりするのを促すものである。
・セッションは、よくペース配分がなされ、すべての子どもたちにとって魅力のあるさまざまな教授スタイルを含む。静かな思考とリラクゼーションの時間があり、バランスの取れた一日になっている。
・付加的な支援が必要な子どもたちのために、特別な活動が準備されている。それは、彼

ら自身のペースで全体的な進展を遂げることを可能にするために開発されたものである。

・時間と資源は非常によく活用されている。職員は自分自身のタイムテーブルを作成しており、雷を見たり、雪を経験したりといった学習の機会が生じたときには柔軟に対応することができる。

・非常によく開発された評価システムによって、子どもたちの達成状況、次の段階へ進むために必要な事柄が明確に示される。

・子どもたちは粘り強さをもち、課題を的確にやり遂げることができる。さらに達成感や自尊心を示す。彼らは、遊んだり作業したりしながら、彼らのつくった模型や絵画について話したり、家庭や家族の出来事について好んでよく話したりする。

・食事とおやつの時間は、リラックスした家庭的なスタイルである。テーブルがきれいにセットされており、子どもたちは場をわきまえることを感じとることができる。子どもたちは、きちんと自信をもって行動し、友達や職員との会話や食べ物を楽しむ。

・子どもたちは話すことや聞くことといった重要なリテラシースキルの発達を促すようにデザインされた活動に参加することで、有能な話し手や聞き手になる。学齢に近づくか、レディネスを示したときには、文字の音や読みのスキルの前段階を導入するような、より構造化された授業に参加する。子どもたちは、ごっこ遊びやトピックワーク（topic work）においてさまざまな目的のために書く。また、本やお話を日課の一部として楽しんでいる。

・数学的なスキルや概念は、自由遊びにおいて並べ替えたり順序付けしたりするような数学的な道具を用いることで発達する。パズルや組み立てキットによって、形や空間の概念が面白く意味ある方法で導入される。問題解決や初歩の計算スキルを導入するのに、コップや果物やビスケットを配るお手伝いなどの日課が利用される。砂、水やその他の物質を用いて、重さや測定の概念を探求する機会が提供される。

・家庭用の道具や、CD プレイヤー、デジタルカメラ、電気のおもちゃなどのテクノロジーを用いたごっこ遊びといった、トピックや毎日の活動を通して、現実世界に関する知識や理解の発達が促される。さまざまなプログラムをやり遂げるスキルが発達するのに伴い、子どもたちは基本的な情報テクノロジースキルに堪能になり、マウスやキーボードを使用することができるようになる。

・動物病院の看護士のような園への訪問者があるときは、彼らのスキルや動物と共にどのように働いているかを子どもたちに見せる。

・子どもたちは庭で見つけた虫や自然物を調べるために虫メガネを使うことができる。

・子どもたちは保護者と夏に動物園への遠足を楽しみ、その行事を思い出すために写真を見ることができる。

・園庭に備え付けられた大きな遊具は外遊びで自由に使用することができ、身体的発達が促される。キャッチしたり投げたりするスキルを促す小さな遊具や、乗ったり操縦したりすることができる車輪つきのおもちゃもある。

・子どもたちは、さまざまな道具を用いることで微細な筋肉を発達させる。また、食器や調理用具も使用することができる

・美術と工作の活動のプログラムにおいて、色を混ぜることや異なるメディアが導入され、創造性の発達が促される。事前に決定された目標なしに、描いたり、印刷したり、コラージュをしたりすることができ、創造を通して自分自身を表現することができる。

・音楽は日課の一部であり、歌や楽器の演奏

が行われる。特に天気が悪く外で遊ぶことができないときは、活動的な音楽と動きのセッションが行われる。

○子どもたちの積極的な参加への援助：outstanding

・子どもの個別のニーズがよく把握されており、子どもが最も興味を持っていることを念頭に置いて保育がなされている。たとえば、好きな学習のスタイル、遊び、食事と睡眠のパターン、お気に入りのお話や活動など。子どもの個別のニーズは、すべての時間において考慮される。個別化された保育は、保護者との定期的な話し合いや、子どもを観察することによって達成されている。

・すべての子どもたちへの統合保育がなされており、さらなる援助が必要な子どもたちに対して、彼らが園の日課のすべての側面に触れ、最大限の進歩を遂げることができるよう、きめ細かい援助がなされている。必要なときには外部の専門家からの援助や指導が行われる。保護者は情報を受け取り、職員と親密に協働することが保証されている。

・各教室は異なる鳥にちなんで名づけられ、それがやわらかいおもちゃであらわされているため、子どもたちは園でのアイデンティティの感覚を発達させることができる。子どもたちはその鳥を家に持って帰り、たとえば休日にどこに行ってきたかを報告する。これは、ポピュラーな活動であり、子どもたちが園の生活に貢献していると感じたり、家庭と園には重要で楽しいつながりがあるということを実感したりするのを助ける。

・家庭的なスタイルの集団において仲間や保育者との良好な関係を発達させることができる。子どもたちの行動は、職員のポジティブで明確なマネージメントと、子どもの発達に関する知識に基づく現実的な期待の結果であり、他の模範となるものである。

・保護者や carer とのパートナーシップは傑出している。

・園は保護者や carer との良好な関係を育成するために努力している。入園の際に詳細情報が聴取され、頻繁に更新されるため、職員は子どもに影響を与えるすべての関連情報と変化について把握している。

・ 保護者に対し、園生活のすべての側面について多様な方法で通知がなされる；学校案内、定期的に発行されるニュースレター、各教室に備え付けられた掲示板等。

・保護者は、子どもたちの発達の記録を見ることができ、子どもたちの成長や関心事について、担任（key workers）と話し合うことができる。これは、日常的にインフォーマルになされるだけでなく、オープンセッション中にも設定される。オープンセッションでは、すべての保護者と carer が園に招待され、活動に参加してみることができる。

・子どもたちは日誌を家に持ち帰る；保護者はコメントや情報を付け加えることができ、担任と家庭との接点として利用されている。

・子どもたちの精神、モラル、社会性、文化の発達が促進されている。

・子どもたちは自立することと助け合うことを学んでいる。子どもたちは自分自身の文化や他の文化をトピックや日常の活動を通して学ぶ。子どもたちは行為の結果や人々がどのように感じるかを考える。子どもたちは、子ども同士、また周囲の大人とあたたかく、友好的な関係を築いている。

○組織：outstanding

・職員は、園で働く適性があることを確認するために必要なすべてのチェックを受けている。厳しい検査を受けていない職員やボ

ランティアが、監督なしで子どもたちに接することはないことが保証されている。職員チーム内には非常に高いレベルの資格が存在し、トレーニングに参加している職員はよく支援されている。

・担任は、子どもたちの日々の福祉について責任を持ち、発達の記録をつけ、保護者と連絡を取っている。職員と子どもの割合は、すべての子どもたち個々に注意を払うことを保証するために必要とされる最小の値を超えている。

・部屋には高品質の家具と備品が備え付けられており、子どもたちに変化にとんだ面白い一日を提供するのに空間が上手に利用されている。たとえば、子どもたちは教室で小グループで作業したり、上の階へ行って窓から鳥を観察したり、変わりゆく季節を経験したり新鮮な空気を味わうために外で遊んだりする。

・すべての書類は所定の位置に保管され、細心の注意が払われて高水準に保たれている。園は、同じ経営者の下に設立されたグループの一員であるため、方針や手続きについてのよい実践がグループ内のすべての保育者間で共有されている。

・すべての書類は、正面玄関の近くの中央オフィスに保管され、機密が保たれている。職員は必要な書類を手に入れることができ、進行中の日々の記録は教室に保持されている。

・リーダーシップとマネージメントは傑出している。

・園には、個々の子どもたちの発達と達成に焦点を当てた明確なビジョンと理念が存在する。職員は、モチベーションが高く、熱心である；彼らはアイディアを持ちより、実践にポジティブな影響を与えている。職員は自分の価値を実感しており、チームとしてよく働き、高い水準の保育と教育を提供するために最大限の努力をしている。

・職員は、事務仕事を完成し、記録を最新のものにしておくための時間が与えられている。

・毎週、マネージャーの会議では、ルームリーダーにその週の活動やニュースが手短に伝えられ、職員は定期的に全体で集まり、必要なときには小さなチームで集まる。

・職員は、室内外の環境を、子どもたちの作品で明るくカラフルに飾り付けしていることに誇りを持っている。

・監査と評価の継続的なシステムが存在し、活動がうまくいっているかどうかを判断するための話し合いが行われる。将来の計画に情報を提供するプロセスである。職員の専門性向上のためのニーズは、定期的な評価を通して取り組まれる。そのプロセスに職員は十分に関わり、彼らの観点が検討され評価される。職員は園のすべての側面や日々の経営について意見を求められる。また、Ofsted の自己評価フォームを完成させ、彼らの観点について話し合う機会を持つ。

・マネージャーは、トレーニングが最近の動向や発展に遅れないための方法であり、最大限可能な保育と教育を提供するための規範を育てる方法であるという強固な信念を持っており、このビジョンに取り組むための十分な支援をオーナーから受けている。

・職員は頻繁にトレーニングデイやコースに参加し、スタッフミーティングの際に知識を他の職員に伝達する。また、その知識を子どもの保育に役立てている。

○過去の評価以来の改善点：適用なし

○過去の評価以来の不十分な点

・登録以来報告すべき不十分な点はない。

・保護者からの苦情の記録については、保管することが求められる。

◈ 将来の改善のためになすべきこと

○保育の質と水準

・保育の質と水準は傑出しているため、改善することが推奨される点はない。

○教育の質と水準

・ 教育の質と水準は傑出しているため、改善することが推奨される点はない。

施設Ⅱ（Kindergarten）

本調査結果におけるこの施設の保育および教育の質と水準に関する総合評価 outstanding

◈保育環境（provision）の領域別評価およびその根拠

○子どもの健康への援助：outstanding

・子どもたちは非常に健康である。衛生状態が高い水準に保たれ、子どもたちの健康のあらゆる側面への対応がよくなされている。園の清潔さには細心の注意が払われており、職員は衛生的な環境で保育がなされていることに誇りを持っている。

・子どもたちは、職員の援助のもと熱心に手洗いをしている。手洗いは、食事の前、トイレや園庭での砂遊びの後に、日課の一部として行われる。子どもたちは手洗いの必要性を十分に理解しており、‘ばい菌’をとりのぞくために手を洗うということをわかっている。年上の子どもたちは、自立的にトイレに行くことができ、トイレが終わったら手を洗う必要があることをお互いに教えあっている。

・子どもたちは楽しんで歯を磨く；感染が広がるのを予防するために、洗面所には歯ブラシと歯磨き粉が個人別の袋に入れて保管されている。

・おまるや便座を使い始めた子どもたちへの援助がよくなされている。職員は子どものトイレのニーズに関する保護者の希望を理解しており、個々の子どもの発達段階を認識している。

・園で体調が悪くなった子どものニーズは非常によく対応されている。彼らの医療的なニーズが調べられ、安静な状態に保たれ、定期的にモニターされる。園が解熱剤を投与する許可を得ているときでも、すぐに保護者と連絡が取られる。職員は、薬が必要な子どもたちに対し、園で作成された手続きに従い、非常に専門的なアプローチで接する。同意書に記名された子どもに対し、保護者が承認した時間に正確な量の薬が投与されているかを２人の職員がチェックする。その両者は記録に署名し、記録はその故に遭いけがをした子どもに対しては、適切な応急処置のトレーニングを受けた職員が手当てをする。救急箱は園内の各所に設置してあり、十分に補充されているかが定期的に確認される。

・子どもは、外部に対して十分に閉鎖され、よく計画された園庭で遊び、日々新鮮な空気に接する機会を持っている。子どもたちは一年を通して外遊びを行い、あらゆるタイプの天候を経験している。地面がぬれているときには、予備のゴム長靴と傘を使用することができる。すべての年齢の子どもたちは、午前中のセッションと午後のセッション中に割り当てられた時間に園庭を使用する。しかし、園庭に関する方針は柔軟で、外遊びが必要な場合はいつでも外遊びをすることができる。子どもたちは、空間を上手に使用したり、園庭に設置されたよじ登る遊具を使用したり、自転車や車に乗ったりすることで、楽しみながら身体的なスキルを発達させる機会をもっている。よく吟味された小さなやわらかいボールや玉入れの道具によって、子どもたちは投げることやキャッチすることを学ぶ。子どもたちは室内外で道具を上手に使うことを学び、運動スキルを発達させる。彼らは、はさみ、水遊びの道具、カッター、庭の虫を

掘るための小さな園芸道具を上手に使う。また、ビーズを糸に通す。

・子どもたちの食事のニーズはよく満たされている；彼らは多様な新鮮な果物や野菜をメインの食事やおやつの時間に食べる。食事は経験豊富な調理師により敷地内で準備される。12 週の周期でおいしい家庭料理が提供される。個々の子どもの食事のニーズがすべての職員に伝えられ、調理師は確実に適切な食事を準備している。子どもたちはおやつや食事の時間に一緒に座り、静かに会話し、この重要な時間を友達や職員と共有している。担当者（keyperson）が哺乳瓶で授乳する際には、目を合わせてやさしく語りかけ、子どもたちは一対一での世話を経験する。離乳食は、すりつぶしたもの、小さな塊、大きな塊といった個々の発達段階に応じて提供される。

○危険やネグレクトからの保護と安全への援助：outstanding

・子どもたちは、美しく建て替えられた 3 階建ての建物で保育されている。低年齢の子どもたちは、1 階の 3 つの大きなプレイルームを使用する；すべての部屋が子どもたちの作品で飾られ、刺激的な環境を提供するようよく準備されている。年上の子どもたちは 2 階のプレイルームを使用している。自立を促すよう設備が整ったトイレが備え付けられている。1 階は直接広い園庭に通じている。

・子どもたちは園中のおもちゃや材料を安全に使用することができる。職員は、子どもの発達に関する専門的な知識を駆使し、興味を引くような方法で遊びの道具を子どもの高さに提示している。子どもたちが使用したり遊んだりする道具は、発達的に適切であり、職員が定期的に整備している。また、子どもたちに刺激的な変化を提供するため、予備の道具と交代で与えられる。

・職員は子どもたちを守るために明確で有効な安全の手順を遵守しており、子どもたちは園内で非常に安全に過ごしている。定期的な避難訓練が行われ、必要なときには階段のゲートが閉じられ、毎日リスクの検査が行われる。また、訪問者を監視する有効な方法が存在する。職員は容易に特定できるよう制服を着用しており、見知らぬ訪問者はすぐに調べられる。職員は子どもたちにきまりを守るよう注意しており、子どもたちは安全について学んでいる。それは、静かに歩くこと、落ち着いて階段を上り下りすること、2 人の先生が見ていないときによじ登る遊具を使用しないこと、園庭を走り回るときには他の人に注意することなどである。別の寝室に寝かされた乳児をチェックするための効果的な手続きがある。すべての乳児は 5 分から 10 分ごとにチェックされ、職員はモニターによって子どもたちが咳をしたり起き上がったりするのを聞くことができる。

・職員は高度なトレーニングを受けており、経験が豊富であるため、子どもたちは潜在的な危険から非常によく守られている。職員は、子どもを守ることに関する園の明確な手続きを遵守している。それは、保護者に園の責任について情報を提供するものでもある。

○子どもたちが達成することや楽しむことへの援助：outstanding

・子どもたちは、多様な計画された活動と自由な活動の両方を熱心に楽しんでいる。乳児は、喜んで床で寝返りしたり、ハイハイしたり、よく配置された家具や器具などを使ってつかまり立ちをしたりしている。彼らは大人と優れた相互作用を経験しており、遊んでもらっているときには興奮して笑ったりする。職員は、目を合わせたり、ものの名前を言ったり、自由におしゃべり

したりして、乳児の声に上手に応答している。

・低年齢児たちは、色を塗ったり、のりで貼ったり（sticking）、ねばねば遊び（gloop）やパン生地遊び（粘土遊び dough）などのさまざまな散らかる遊び（messy play）に参加する。最年少の乳児でさえも「やってみる」よう促される。彼らの作品は、きれいに壁に展示され、自尊心や誇りの感覚を育てている。最終的な製作物を作ることにはあまり重点を置かずに、さまざまな感覚的活動を経験する義務が子どもたちに課されている。そのことにより、低年齢児たちは異なる匂いや、音や、質感を自由に経験することができる。乳児は、低いところに設置された安全な鏡を熱心に覗き込み、鏡を叩いたり、自分の顔を見て微笑み返すのを楽しんだりしている。また、水の容器の中で水をパシャパシャするのを楽しんでいる。

・1 歳くらいの子どもたちは、ドレスアップしたり、部屋にある小さなおままごと道具を使うことによる想像遊びによって自分を表現している。ベビーカーに人形を乗せて押したり、小さくてカラフルな掃除機で部屋の床を掃除したりする。彼らは、歌を歌ったり、リズムのまねっこに参加したり、音楽に合わせて踊ったりする。また、さまざまな楽器が使えるようになっている。

・子どもたちは、一日を通して、活動的な時間と静かな時間を過ごす。個別の日課が尊重され、望めば自分が安心するためのものを持つことができる。彼らは、毎日庭に出て、異なる環境や新鮮な空気を経験し、身体的なスキルを発達させることができる。

・職員は 3 歳未満の子どもたちのニーズに関する適切な知識をもっており、子どもたちは非常によく保育されている。職員は‘Birth to three matters’の枠組みの理解を発達させている。この枠組みのあらゆる側面をカバーし、指導を組み入れた効果的な計画が作成されている。子どもたちの達成状況が評価され、次の発達段階への情報を提供するものとして使用される。

○幼児教育：outstanding

・職員は、基本的な発達段階（Foundation Stage）について非常によく理解している。長期・中期・短期の計画があり、それらは学習の 6 つの領域すべてを効果的にカバーしている。一日に 2 つの大人主導の活動が準備され、その間に子どもたちの進歩を観察し、その観察を子どもたちの次の発達段階に関する情報を提供するものとして使用する。活動を評価し、よりできる子とそうではない子のために、どのように違いをつけるかを明確に示す。

・職員は子どもたちに話すときには非常にはっきりとした言葉遣いをし、子どもたちが理解するのにさらなる援助が必要だと感じたときには質問やコメントを繰り返す。彼らは質問のスキルに長けており、子どもたちの発達段階に適切で彼らの思考に挑戦するような質問をする。職員は熱心に子どもたちに耳を傾け、話を終えるのに十分な時間を与える。各々の子どものコメントが重要視され、よくトレーニングを積み経験の豊富な職員によって認められ応答される。

・プレイルームはよく整理され、わくわくするような方法で提示されている。3 歳から 5 歳の子どもたちは、園の 2 階にある 2 つのプレイルームを使用する。ひとつの部屋には、散らかる遊びの道具、想像遊びや製作の用具が置いてある。もうひとつの部屋は、コンピューター、本、マッチングゲームなど、主により静かな活動のための部屋である。よく考えられた日課により、子どもたちは 2 つの部屋と園庭での活動を経験することができ、バランスの取れた一日になっている。

・子どもの高さにある低い棚や容器にさまざまなおもちゃや材料が準備されている。すべての道具は言葉と絵によってはっきりとラベルが付けられ、いくつかの材料は異なる言語でラベル付けされている。そのことにより、英語を母語としない子どもたちが落ち着いて快適に感じることができる。
・予備的な援助を必要とする子どもたちが特定されており、彼らのニーズが個人個人に適切な活動によって満たされている。彼らの進歩はモニターされ、彼らは園の一日のすべての側面に効果的に参加している。子どもの行動は、一貫性があり冷静で自信を持った職員によりよくマネージされている。明確で効果的な話し合いによりよい行動を促し、子どもの自尊心を発達させるためにたくさん褒めたり励ましたりする。
・子どもたちは、自由にトイレや洗面所を使用することができ、自分の飲み物を注ぎ、お互いにおやつを配るのを助け合うことにより、自立がよく促されている。子どもたちは、室内でも園庭で遊んでいるときにも、さまざまな目的のために書く。たとえば、子どもたちは交通調査をするために園庭にクリップボードと鉛筆を持っていったりする。子どもたちは、職員の指導と支援のもとに自分自身の本を製作する。たとえば、よく知られた子どもの本‘Peace at last’の解説を作成している。彼らは、自分のイラストを書き、絵を説明する文を書いている。また、レシピブックを作成している。
・子どもたちは、日々の活動の中で数を用いている。彼らは数を数え、簡単な計算を理解している。たとえば、ある子どもは、10本の指をかかげて「私の冷蔵庫にはこれだけヨーグルトがあるわ」と言った。職員の一人は3本の指をかかげ、「私は3つしかもってないわ」と言い、「あなたのヨーグルトは私より多い？それとも少ない？」とたずねた。その子どもは、自分がより多く持っていることを理解しており、何個多くもっているかをみんなに教えることができた。子どもたちは自分で数を数えることができる。たとえば、サンドウィッチを作っているときに、ある子どもは4つのゆで卵を数え、友達に4つ卵があると教えることができた。彼らは、サンドウィッチを切ったり、果物を小さく分けたりするときに、半分や4分の1ということについて学習する。
・子どもたちは、創造遊びの道具を自由に使用することができる。彼らは、3次元の模型や画像を作成するために、さまざまな道具、リボン、箱、糸の中から選ぶことができる。子どもたちの作品は、子ども主導で製作される。これは、子どもが自分自身を自由に表現できることを示している。彼らは、楽器、ダンスで遊び、さまざまな異なる音楽を経験している。彼らは熱心にドレスアップし、ごっこ遊びの道具を使用して楽しい遊びを展開している。
・子どもたちは、園庭の花壇で花や野菜を育てることによって、自然環境について学習する。花壇は三角のものと、正方形のものと、円形のものがある。彼らは熱心に虫や小さな生き物を掘り、時には、虫眼鏡をつかってさらにこれらを研究する。彼らは、双眼鏡を用いてえさ箱にくる鳥を観察する。園が主要道路に面していることにより、優れた学習の機会が提供されている。たとえば、子どもたちは異なる色の車を数えたり、パトカーや救急車がさまざまなスピードで通り過ぎるのを見てどこに行くのかを話したりする。また、学校に行こうとしている子どもたちや、バスに何人乗っているかについて話し合う。中国のお正月について熱心に話し、多様性についてのポジティブなイメージを示すさまざまなおもちゃや道具を使用することができる。

○子どもたちの積極的な参加への援助：outstanding

・子どもが入園するときと進級するときに、保護者が子どものプロフィールを提供するため、子どもたちの個々のニーズがよく把握されている。職員は、子どもの家族構成、好き嫌いについて理解するためにこの情報を利用する。子どもたちのニーズは、園の実践において最優先され、子どもは傑出した個別の保育を受けることができる。子どもたちのニーズの変化は、保護者とのオープンな話し合いを通じて十分に話し合われる。

・子どもたちは、所属の感覚を発達させる；彼らは職員によって大切にされ、尊重されており、コメントや提案が傾聴される。子どもたちが安心できるもの（comforter）を家から持ってくることが勧められ、いつでも使用することができる。馴染み深い人々やペットや友達の写真を選んで、‘私のすべて’という本を作る子どもたちもいる。彼らは、友達と共有するために家族の写真を利用したり、単に悲しいときや疲れたときに見たりする。

・子どもたちは、さまざまなお祭りや特別な行事を熱心にお祝いし、他の人々の慣習や文化について学ぶ。彼らは、最近お祝いした中国のお正月について話していた。彼らは、楽しんでいくつかの中国語をどのように言うのかを学び、中国の食べ物を味わい、中国出身のおばあさんが読んでくれた物語を聞き、中国の服でドレスアップし、中国のドラゴンを作って音楽に合わせて踊り、フォーチュンクッキーの中に入れるメッセージを書いた。園中にすべての人種の人々のポジティブなイメージを映し出したポスターやおもちゃや本があり、英語を母語としない子どもたちがたくさんいる。

・付加的な援助が必要な子どもたちは、園生活に十分に統合されており、楽しんでさまざまな活動を経験している。職員は彼らの進歩を効果的に保護者と共有し、理学療法士などの外部機関とも親密に連携している。すべての子どもたちが、尊重され重視される環境で発達することができるすばらしい機会を保証されている。

・子どもたちは園で自信に満ち、リラックスし、幸福である。彼らの行動はとても優れており、職員の効果的な指導と援助のもと協力することや共有することを学んでいる。彼らは園の行動のきまりを理解しており、お互いに、また職員とすばらしい関係を形成している。職員は冷静で、子どもたちを気遣い、模範となるロールモデルとして行動し、お互いに親切で丁寧に話している。

○保護者や carer とのパートナーシップ：outstanding

・園の管理経営者（management）と職員は、保護者と思いやりのあるオープンな関係を上手に形成している。彼らは保護者の見方を尊重しており、保護者と子どもについての情報を共有するのを可能にする優れた手続きが存在する。たとえば、保護者は、子どもの個人情報と連絡先を含む登録フォームに記入し、また子どものプロフィールも完成させる。そのことにより、保護者から家庭での子どもの能力についての情報が提供される。職員は、この情報を子どものニーズ、バックグラウンド、好き嫌いを把握するために利用する。関連する情報をアップデートするためのコミュニケーションと手続きが継続的に行われ、職員は子どものニーズのどんな変化についても十分に把握することができる。

・保護者は、子どもの発達の記録を自由に見ることができ、子どものキーワーカーと達成状況について話し合うために定期的に会う。そのため、子どもの進歩についてよく

情報が提供されている。園は、最近、Early Years Advisor の勧めにより、夕方の園開放（open evening）を開催した。基本的な発達段階（Foundation Stage）が紹介され、保護者は、子どもたちがよく計画された子ども主導の活動を通してどのように学習し発達するのかについての理解を得た。保護者はこうした会を評価し、その価値についてのポジティブなフィードバックを提供している。出席できない保護者には、有用な情報や資料とともに会の配布物が提供されている。

・保護者に対し、多くの方法により、園の実践のすべての側面についての情報が提供されている；各部屋には掲示板があり、トピックについての計画と情報を見る機会を保護者に提供している。たとえば、' Birth to three matters' の枠組みといったあるテーマについての展示によって、子どもたちがどのように保育されているかについての知識が提供される。また、ニュースレターにより、園内のプロジェクトやトピックについての情報が提供される。保護者は、子どもの学習に積極的な役割を果たしている。たとえば、その週のレターに書かれたものを持たせて子どもたちを園に送り出す。

・子どもたちの精神的、倫理的、社会的、文化的発達は促進されている。

・子どもたちは、自立しており、お互いに思いやりがあり親切である。彼らは、トピックやお祭りを通して他の人々のニーズを学習し、お互いの気持ちを尊重する。

○組織：outstanding

・子どもたちは、思いやりがあって献身的な大人のチームによって保育されている。職員が、適切な資格や経験を持っており、適切に審査され審査にパスしており、健康であることが、綿密な手続きによって保証されている。職員のチームには、ベテランの職員と若い職員が混じりあっている；これは職員と保護者によって園の強みであると認識されている。職員はさらなるトレーニングを積むことが奨励されており、自分の強みや専門性を利用することが積極的に奨励されている。たとえば、以前に 'Birth to three matters' の枠組みによって働いていた新しい職員は、この年齢グループの活動を計画するのにその知識を同僚と共有する。大部分の職員は、レベル 4 までのトレーニングを受けており、さらにトレーニングを積もうとする者は園の体制によってよく支援される。

・子どもたちのキーワーカーは、個人のニーズに注意を払い、進歩を記録し子どもの達成状況について知らせるために保護者と連絡を取る。子どもに対する大人の割合が要求された値を常に上回っているため、子どもたちは非常によく援助され、すばらしい大人との相互作用が提供されている。

・職員は空間と設備を効果的に配置し提示しており、子どもたちの周囲の環境は恵まれている。家具や設備は質が高く、個々の子どもたちのニーズを念頭において選ばれている。たとえば、低年齢児の部屋で用いられている低いいすは、最年少の子どもたちに合うように、さらに自立性を得ようとする子どもたちに対してはチャレンジを提供するように、容易に調整することができる。

・文書化された手続きと書類は、細心の注意が払われ高い水準であり、園内のすべての実践を支えている。職員はその手続きに常に従い、保護者は運営計画や出版物を通して園の日々の運営について情報を得ることができる。書類は能率的に保管され、常に保守されている。